

# 第三者意見



横浜市立大学 学術院  
国際総合科学群 教授  
グローバル協カコース長

上村 雄彦 氏

第三者意見を担当させていただいて3年になる。まずは4年ぶりに死亡災害ゼロとなったことを心からお祝いしたい。また、災害事故総件数でも、2013年度比29%減となったことは高く評価したい。言うまでもなく、人の命は何よりも大切なもので、それなくしてCSRも何もあったものではないからだ。

さて、昨年は、本業を通じて社会に貢献する「ほんもの」のCSRがどの程度実現できているかという観点から、改善点として、①女性従業員の少なさ、②合材部門と舗装・土木部門でのCO<sub>2</sub>排出の増加、③2014年度目標値の小ささ、④どうやって目標を実現するかが明示されていないことを指摘させていただいた。

その点も踏まえて、本年度のレポートを読ませていただいたが、まず①は昨年度よりも2名減ったが、全体に占める割合は上昇しており、改善。②は合材部門が6.4%増で、要改善。③に関しては、「環境配慮型工法の技術営業推進」以外は、概ね合格。④は、文章の中に散見されるが、まとまった項目として具体

的な記述はなかった。④については、昨年度の意見で、たとえば全国157カ所にあるアスファルト合材工場から排出される熱を活用して、温水を含めた新たなエネルギーを作り、地域冷暖房システム等を構築する「コジェネレーション」を推進することなどを提案させていただいたが、いかがだろうか？

他方、今年の報告書を読んで、死亡災害以外にも、(1)オフィス部門での電気使用量が2009年度比で14.7%、紙の使用量が同15.6%削減されたこと、(2)東日本大震災被災地である宮古市で新たにプラントを完成させたこと、(3)アスファルト合材の販売数量に応じて、売り上げの一部を「世界の子どもにワクチンを日本委員会」に寄付していること、(4)年々気温が高くなる状況で、「アクアクレイ」、「パーフェクトール」などのNIPPOならではの技術を開発して、路面の温度を下げていくことは高く評価したい。

特に、「アクアクレイ」は、水をかけるだけの簡単土系舗装であるにもかかわらず、アスファルト舗装が64.3度の時、39.8度と、24.5度の温度差をつくり出していることは特筆に値する。温暖化の進展で、ますます高温になり、それによる熱中症の増加が予測される中で、これらの技術はますます重要になっていくだろう。

「この道の先に」という未来へ向かう姿勢と希望を掲げたNIPPOには、これからも一歩先を行く具体的な取り組みと成果を大いに期待したい。

## ご意見をいただいて



環境安全・品質保証部長  
北村 一博

当社の取り組みについて継続して貴重なご意見をいただき、改めてお礼申し上げます。

経年で共通してご指摘いただいている合材部門のCO<sub>2</sub>排出量(原単位)の増加については、長期にわたり目標を達成できておらず、さらなる取り組みの必要性を感じております。今後も工

場設備の改善やCO<sub>2</sub>排出量の少ない燃料への変更などにより対策を講じてまいります。

またご提案をいただいております本業を生かしたコジェネレーションについては、社会からの要請と実現可能性などを考慮し、検討していきたいと思っております。

当社の舗装事業における環境技術については高く評価いただき、誠にありがとうございます。今後も日本の道路建設のリーディングカンパニーとして、舗装技術の進化に努めてまいります。

今年制定したコーポレートスローガン「この道の先に」は、従業員やその家族から応募いただいた中から決定し、未来へ向かう姿勢と希望を託したメッセージです。今後もよりよい未来社会の構築に向けて、さまざまなご意見を伺いながら改善に励み、CSR活動の取り組みを推進していきます。